

京都教区時報

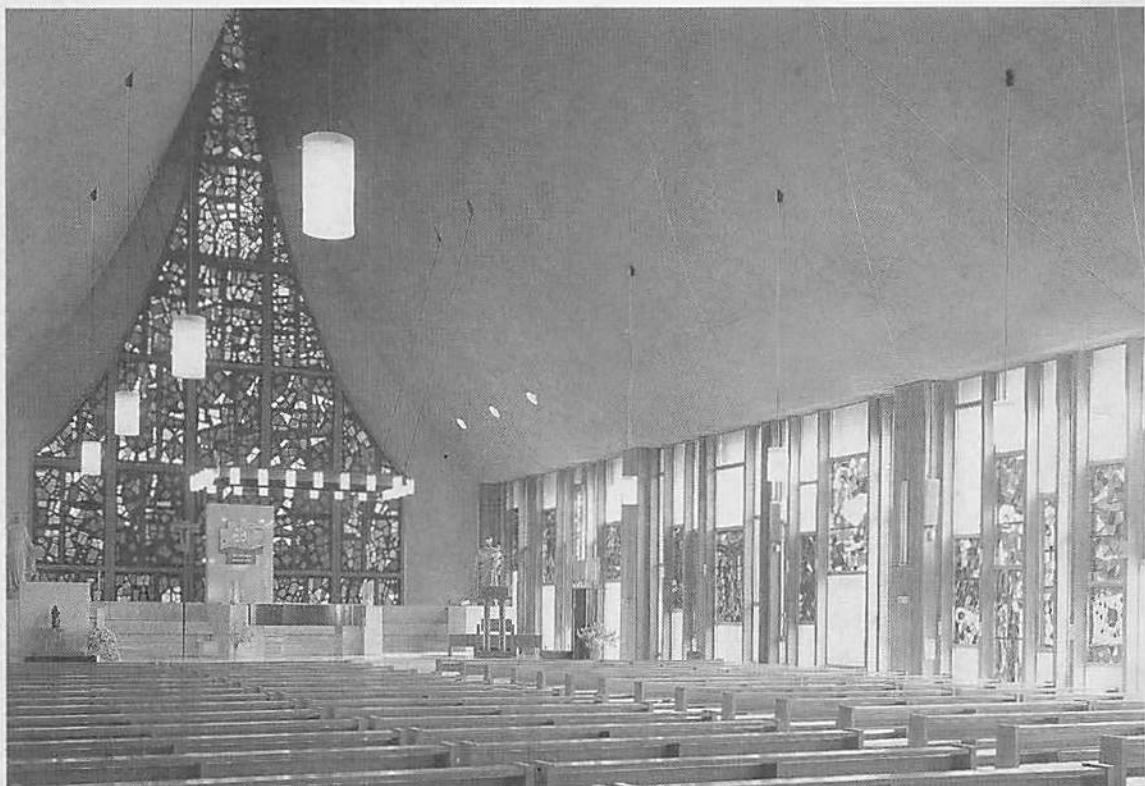
Home Page <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/>

2・3頁 京都教区巡礼指定地紹介

8・9頁 京都教区における共同宣教司牧の現状

発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



大聖年のしるし 一致

ああ人知を超えた、キリストにおける愛の一一致の神祕を悟らせて下さるように(エペ4・19)。

聖体祭儀に一致の極みがあると、教皇様は看破された。共に祈り、共に言葉を生き、共に聖体を分かち合い、愛の交わりに生きる一致の集約が聖体の秘儀と祭儀にあることを。

聖書の中から一致についての教えを見出そうとすれば、その視点の豊かさに戸惑ってしまう。そこで、主の祈りを共に唱えよう。これこそ一致の祈り。「パパ(お父さん)」と呼ぶ。御子と共に聖靈によって御父に向かって。

ああこれは三位一体的祈り。「私たちの」と加える。私たちみな一人の方をパパと呼ぶ兄弟的集い。そうこれは、人類共同体的祈り。「天におられる」。天よ地よ宇宙よ。われらみな共に神を賛美しよう。こうして宇宙的な祈りをする。心は広く大きく温かく親しくなつて。私たちは一つだ。

(写真は巡礼指定地の河原町教会の聖堂内部です)

12
2000

京都教区巡礼指定地紹介 ～その11～

●カテドラル河原町教会所在地

当教会は、王朝千古の都、京都の中心地、その昔、東海道五十三次の起点として有名な三条大橋の辺り、中京区河原町通り三条上ルにあります。近くには、心のとどましご運動のY.B.U本部、京都市役所、京阪三条駅、地下鉄東西線の市役所前駅、地下街、有名ホテルが幾つかあるという交通至便の最高の地であります。

●教会の歴史

当教会の歴史は京都に於ける最初の布教の歴史でもあります。一八七九（明治十二）年、ビリオン・シスコ・ザビエルが我が国に上陸してから丁度三百三十年目であつた。師は早速、市内二条高倉にささやかな家を借り入れ、これを仮聖堂とされました。これが明治以降に京都にできた聖堂の最古のもので、京都での宣教はその当時すでに信教の自由は確立されてい

●天主堂建築の経緯

天主堂建築は、聖フランシスコ・ザビエルによる「京の都に聖母に捧げた教会を」との祈りが三百五十年を経てビリオン師によって進められた。師の熱意と神の恩恵により、次々と資金を提供して下さる篤志家も出て、資金は必要額に達してきた。「中部日本代牧区」の初代司教、ミドン司教もビリオン師に協力され、将来に備えてさらに広い土地を希望された。幸い



(昭和四十二)年六月、現在の新聖堂が竣工されるや、正面に司教紋章も掲げられ、旧聖堂は大山の明治村に寄贈された。



●司教区に昇格・新聖堂の竣工
宣教百二十年

にも一八八八年、広大な敷地の大名屋敷（対馬宗屋敷）を買い取ることが出来た。これが現在の河原町三条上ルの敷地である。待望の献堂式は一八九〇年五月一日、クザン大司教の司式で、日本の三教区長、大勢の司祭の共同司式により捧げられた。東京より仏大使、京都府知事をはじめ、政財界の多くの名士が参列して盛大に行われたと、翌日の「日の出新聞」（現京都新聞）には写真入りで大きく掲載されたようです。こうしてザビエルの夢がかない、当教会はザビエルに捧げる教会として今日に至っている。

当教会には司教座が備えられ、司教座教会（カテドラル）となつた。長年慣れ親しんだ由緒ある旧聖堂の老朽化が激しく、新聖堂建設の機運が盛り上がり、ロイヤルホテルとの契約も成立し、一九六七年六月、現在の新聖堂が竣工されるや、正面に司教紋章も掲げられ、旧聖堂は犬山の明治村に寄贈された。

一九八〇年一月三日、当教会は宣教百年を迎える。明治村の旧聖堂において記念ミサ、記念誌「宣教百年の歩み」の発行など記念行事を行う。本年二〇〇〇年の大聖年は、当教会においては、最初の洗礼より百二十年、宣教百二十年の記念すべき年である。

●教会活動

当教会は「京都南部地区共同宣教司牧東ブロック」に所属している。東ブロックとは、北白川教会、高野教会・山科教会・河原町教会の四教会です。四教会では、二ヶ月に一度、連絡協議会を持ち協力体制の確立を目指しております。

去る九月二十四日(日)には、東ブロックの大聖年行事として「子どもと共に捧げるミサ」が、四教会の大勢の子ども達、お母さん方、その他、お手伝いの方々の参加で超満員の聖堂に於いて、大塚司教式による共同ミサが捧げられました。ミサ中、子ども達に良く分かるようにとの配慮から、福音朗読の箇所は司教自らがイエス様役となり、子ども達は会衆となつて、五つのパンと二匹の魚を増やされる場面をミサ中劇として演出され、

子ども達も迫真的演技をし、意義あるミサが捧げられました。その後の子ども達の交流パーティーも盛り上がり、有意義な大聖年行事となりました。当教会担当司祭は昨年四月、西陣教会より着任して下さった浅田年生師で、師は特に東ブロック共同司牧の推進には力を注いで下さっております。

●聖親会(信徒会)活動

信徒会は一九五一(昭和二十六)年、主任司祭、古屋義之師の司教叙階に伴い、丸山吉高師が主任に就任されると、早速信徒の動きを結集され、信徒会を結成し、聖親会と命名される。

聖親会には「ヨゼフ会」と「マリア会」「青年会」「中高生会」「土曜学校」「侍者会」等の部会があり、他に諸活動として「教会財務委員会」「聖歌隊」「レジオマリエ」「ヴァインセンシオ・ア・パウロ会」「キリストン研究会」「ガルスカウト」「イクトウス(月刊機関誌)編集委員会」「結婚互助会」等があり、毎月一回その代表者による役員会が開かれ、教会行事、運営等につき種々話し合われ、それぞれに活発な動きがなされて

おります。

特に、ヨゼフ会、マリア会は教

会の諸行事には常に中心的立場で活躍され、教会の柱的存在でもあります。今年の三回に至る、バス

を連ねての大聖年巡礼行事も、両

会の役員委員の方々の綿密なる企画・立案・準備により無事挙行されました。当教会の聖歌隊の歴史

は古く、戦後、古屋義之司教は特

に聖歌隊に力を入れられ、自らご

指導、司教直属の部会として発足し、洛星高校からの良き指導者に恵まれて、カテドラルに相応しい、

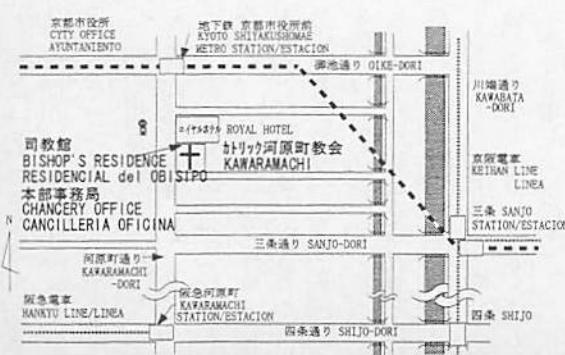
素晴らしい歌唱力の聖歌隊として、京都南部では古くから定評があります。また、機関誌「イクトウス」

は、一九五一年の創刊に始まり、毎月欠かさず発行し、ここに五十年、あと数カ月で六百号に達することとなりました。これも、当教会が誇りとする一つであります。

その他、各部会の活動を紹介した

ことです。紙面の都合上省略させていただきます。

大聖年も残り僅かとなりました。皆様の当教会への巡礼を心よりお待ち致しております。



カトリック河原町教会
京都市中京区河原町三条上ル
電話 075 (231) 4785
FAX 075 (211) 8021
主日ミサ 午前七時・九時・十時半
午後六時半
平 日 午前六時半
火・水・金 午後六時半
土 曜 午後六時半

奈良県「キリスト降誕」1000年記念大会

講演と賛美の集い 福音宣教と一致を目指して

九月三十日(土)、「なら1000年記念大会」で開催された「キリスト降誕」1000年記念大会は、会場を埋め尽くす2700名余の方々を迎えて始まり、主を賛美する聖歌と、テーマ「いのちの輝きをみつめて」の柏木哲夫氏(淀川キリスト教病院・名誉ホスピス長)の

講演が行われ、神の祝福のもと、大盛会のうちに終えることが出来ました。

この企画がスタートしたのは一

九九年の朝祷会からで、その年の十二月に第一回目の準備会が開催され、二年間にわたり奈良県下

のプロテスタント教会の方々と共にエキュメニカルを目指して取り組みました。

今回は、キリスト教会

一致とともに記念すべき

キリスト降誕1000年

福音宣教をテーマに、

信徒と共に未信者の方々

への呼びかけにも重きを

置いて準備することになりました。そのため、内容は親しみやすい聖歌や教会音楽を中心とした部分と、新しい明日を予感される講演を組み合わされました。内容は手話通訳され、車椅子で来られた方にもバリアフリーとなるように

聖歌隊は奈良県下900余のすべてのキリスト教会に呼び掛け、二三〇名の方の参加をえて、半年にわたる練習が行われました。(この聖歌隊は、今回で解散すること

の無いよう、奈良県キリスト教連合会の聖歌隊「ならジュビリー」

として継続するように準備が行わ

れています。)

この記念大会はカトリック教会、聖公会、日本基督教団、ルーテル教会、そして、福音派の教会や単立のキリスト教会など、多くの人々の協力と奉仕、献金、そして、祈りのお陰で一致して働くことが出来ました。

しかし、わたしたちは毎年一月

のキリスト教一致祈祷週間を中心

にエキュメニカルのための祈りと

とですが今でも一部のプロテスタント教会には、カトリック教会との同席を拒まれる声があることを忘れてはいけないと思います。
(今回の実行委員会の席上でもそのことが話されました。)



講師 柏木哲夫氏
(中央、右は手話通訳者)



230名の聖歌隊と
関西エヴァンジェリカルハーモニー(アンサンブル)

また、すべての歌と講演

の内容は手話通訳され、車椅子で来られた方にもバリアフリーとなるよう

行動を続けていますが、残念なこ



聖書講座シリーズ「旅する神の民」9／13、14

メシアへの旅

大島 力 牧師

「メシアへの旅」という題を与えた。次に二つのことを考えました。一つは、私たちがどのように旅をしたらメシアと出会えるか、ということ。もう一つは、旧約聖書からイエス以前の時代の人々がどのようなメシアへの旅をしたのか、ということです。

旧約聖書の人々がメシアを待ち望んでいたのはあきらかですが、その旅の出発点はイザヤ書ではないかと思います。メシアというのには「油を注がれた者」という意味でヘブライ語でマシーアハという言葉からでてきたものです。油といふのは新約聖書では聖霊の油といわれ、聖靈をあらわします。しかし、マシーアハの時代では本物の油です。例えば、ダビデが王様になる時、サムエルが油を注ぎます。また王だけではなく、大祭司も油を注がれます。それによって皆から認められるのです。ですから立派な王であれば國を救う、祭司であれば神の民を生き生きとさせること、人々を救う者、民族を救う者をメシアと呼ぶよう

になりました。これが、メシアの意味です。さらに、メシアをギリシャ語で訳しますと「クリストス」となり、油を注がれた者という意味で、ここからキリストという言葉がでてくるわけです。ですからメシアすなわちキリストと考えられたわけです。イエス・キリストというのは名前ではなく、「二〇〇〇年前に生きてガリラヤ地方で伝道して、最後エルサレムで十字架にかかるたあのイエスこそメシア、キリストである」という告白で、大事な言葉であり、キリスト教会の根本であると思います。

イザヤ書七章十四を見てください。この箇所はメシアへの旅の本格的な出発点の一つです。これは「インマヌエル」という事実である」ということが書かれています。インマヌエルとは「神我らと共に」いう言葉で、イザヤ五十三章五の最後に、「多くの人の過ちを担ったのはこの人であった」という言葉が書かれています。これこそ新約聖書に受け継がれたメシアのイメージです。ペトロの手紙第一、二章二十二～二十四ではつづりとしたメシアの受け止め方が分かれます。なぜなら「彼のうけた傷によつてアザヤ十一章一です。ここでは、人間は確かに進歩していくが、その延長線上に救いがあるのではなく、人間の歴史というのは、裁きがあります。このように旧約聖書の影響がみられ、イエスの十字架と深い深い意味が受け止められ、まさにキリスト教会がイザヤ五十三章からイエスの十字架を理解したところが書かれています。そして、断絶をへて新約聖書の時代にイエス・キリストが生まれると語っています。

旧約聖書には二つのメシアについてのイメージがあります。一つはダビデのような権力や武力をもつて平和をもたらすイメージです。もう一つは新約聖書に受け継がれたイメージで、イザヤ五十三章五を見てください。「彼のうけた傷によっていやされた」という告白があります。特にイザヤ五十三章の最後に、「多くの人の過ちを担当したのはこの人であった」という言葉が書かれています。これこそ新約聖書に受け継がれたメシアのイメージです。そして、イエスが十

字架にかけられる意味を理解するための決定的な箇所であり、それがメシアへの旅の到達点に導きます。ペトロの手紙第一、二章二十二～二十四ではつづりとしたメシアの受け止め方が分かれます。なぜなら「彼のうけた傷によつてアザヤ十一章一です。ここでは、人間は確かに進歩していくが、その延長線上に救いがあるのではなく、人間の歴史というのは、裁きがあります。このように旧約聖書の影響がみられ、イエスの十字架と深い深い意味が受け止められ、まさにキリスト教会がイザヤ五十三章からイエスの十字架を理解したところが書かれています。そして、断絶をへて新約聖書の時代にイエス・キリストが生まれると語っています。

最後に、私たちは過去にさかのぼるような形でメシアとしてのイエスを見てきましたが、私はイザヤ五十三章、十字架のイエスの痛みと苦しみを思う時、「あれは、私の痛みと苦しみをイエスがそこで背負ってくれている」そういうふうに告白せざるをえない気持ちになります。それは、イエスが私のところに来てくださったということ、これが福音の大きな意味ではないかと思うからです。

メシアへの旅という中で、ありのままの、私の所まで来て「あなたの痛みと苦しみを負う」と言つてくださるところが聖書のすばらしいところだと私は思います。

『今年二〇周年を迎えた

カトリック青年アジア体験学習

や青年リーダー養成のためのプロジェクト、また、台風や大きな火事などの災害の時などにも協力しました。

【二十年の歩み】

今年で二十年にわたるカトリック青年アジア体験学習に携わったメンバーは、全国に約三百名いると思われます。そのうち、約二百名が関西出身で、残り百名は全国各地から参加してくれた方々です。

一人一人の参加者が感じたこと、得たものは違うでしょうが、人生を豊かにしてくれるものが多く発見したことでしょう。

はじめに、このカトリック青年アジア体験学習は、松本三郎師の提案で始まりました。松本師自身がフィリピンで九ヶ月間過ごし、いろいろな人や文化に出会い、その後の違いや豊かさを通して、みな兄弟として助け合うことができる強く実感し、フィリピンから帰ってきて、この素晴らしい体験を一人でも多くの青年たちと分かち合いたいと思い、普通の観光旅行と違って、本当に生きている人と触れ合う機会をつくってあげたいと考え、体験学習ツアーや計画しました。

京都カトリック青年センター

(西院カトリック会館二階) が出来た時から、このカトリック青年

アジア体験学習の事務局はそこに移りました。毎年八月後半(約十四日間)、平均して十名から十五名の青年参加者がフィリピン・ルソン島のインファンタという町に旅立ちます。プログラムの主な内容は現地の若者達との交流、五日間のホームステイ、農業試験場の見学、有機栽培農業や地域の発展の為の計画などの講話、フィリピンの歴史、文化も紹介されます。

二十年間にわたって日本の青年たちはインファンタの人々との触れ合いや出会いを通じて、自分自身を深く見つめ直し、価値観を変え、人生そのものを変えるほどの刺激を受けてきました。

一步踏み出さなければ何もできないと分かりました。今は税理士になり、アジアへの支援活動をするNGOに対し専門家として関わっていきたいと考えています。

(Y・T)

④インファンタの町の風景



④歓迎するホームステイ先の家族。体験学習のメンバーたちが毎年五日間、村の人たちの家に歓迎されてホームステイをします。



三百名のメンバーより

◆私が体験学習に参加したのは、一九八五年と八六年です。今私は、

にとって体験学習の一番の思い出

は、フランス神父様の講話の中の「日本はアジアの中の黄金の頂を持つ山です。」という言葉です。

体験学習から帰ってアジアの国々に対しても何かしなければならない

と強い衝動に駆られたのですが、何をしてよいか分からず、何も

しないまででした。九四年に妻が体験学習に参加しました。帰国後

彼女も何かしたいと考えたらしく、すぐさまボランティアショップのボランティアになりました。

一歩踏み出さなければ何もできないと分かりました。今は税理士になり、アジアへの支援活動をするNGOに対し専門家として関わっていきたいと考えています。

◆私は物にあふれた日本で生活しているのに、インファンタで、毎日の食べ物も必死で獲得しながら生きている人々、そんな貧しい人々が神様を全面的に信頼して生きていることを目のあたりにし、私はショックでした。

◆私は物にあふれた日本で生活しているのに、インファンタで、毎日の食べ物も必死で獲得しながら生きている人々、そんな貧しい人々が神様を全面的に信頼して生きていることを目のあたりにし、私はショックでした。

そのショックの結果はすぐには出なかつたけれど、今現在の私は、あのショックをうけた時から生きる道が変えられた私です。そして、そんな私の生活の中の様々な出会いは、神様の見えない力によって与えられているということも気付かされました。(E・T)

◆既に社会人として参加した私は、多大な影響は受けたが現在も変わらず日々暮らしている。ただ、自分の気の持ちようは、かなり変わった。いや、「変えなければ」という事に気付いた。それは『いつも笑顔でいる』ということ。仕事以外、どんな時もそうありたい。笑顔から入るのが、コミュニケーションの第一歩に相応しい。体験学習を通して、勇気付けられた私は、笑顔でいられるように努めているのである。(M・S)

◆この体験は、私にとって、幼稚園の先生という立場での判断の基準にもなっていたと思います。フィリピンで出会った子ども達のようにもっとのびのびと自由に、そして、たくさん仕事を経験して欲しいと、日々保育していました。又、フィリピンから日本という国を見

た事で、日本の良さ、日本人としての誇りなど、もっと自分の国を見つめ考え、そしてやはり、それを子ども達に伝えなければならないと考えるようになりました。

今年、再びOBツアーで感じた事は、十二年前と比べると、生活の中の電化が進み、電話や、コンピューターも導入されてきたインファンタ、これから体験学習や交流の方法、又、援助などの事も、改めて考えていかなければ;と、よく話し合いました。(K・F)

二十年を記念して今年の夏に行なわれたOBツアーの中で、参加者はこの活動の将来を積極的に考えて、新しい関わり合い、役割をもちたくなりました。

【新しい歩み】

新たな連絡方法として、インターネットにホームページを開き、情報交換を行う取り組みを始めました。また、インファンタとの情報交換や、来年からのOBツアーの企画なども検討しています。

豊かな経験をもっている三百名以上の若者達は何と貴重な人的資源でしょう。みんなで力を合わせれば素晴らしい可能性が出てくることでしょう。



◎今年の八月十一日～十五日、二〇〇〇周年を記念するOBツアーが行われた。大自然の中での感謝の祭儀。司式はフランシス・ルカス神父。共同司式は森田神父。フランシス師は、この体験学習の当初からプログラムを組んで、毎年共同体発展グループと一緒に私たちメンバーを温かく迎えてくださる。

④「インファンタ 日本とフィリピンの青年たち一九八〇～二〇〇〇」と題し、体験学習二〇周年をお祝いするメンバーで、今年の八月にOBグループと第二回の参加者が歓迎された。



また、フィリピン人と日本人の両親から生まれた子どもたちが参加できる体験学習ツアーの企画、将来、自分たちの子どもが参加できるインファンタツアーや企画、そして、他のアジア諸国の人々との交流を推進する活動など、可能性がたくさん考えられています。

京都教区における共同宣教司牧の現状

「なぜ共同宣教司牧なのか」（前月号の続き） 森田直樹

今になって分かりかけてきたことは、「よりよき福音宣教共同体」になるために、司祭と信徒・修道者が手探りで「新しい教会のあり方」を模索する動きこそが「共同宣教司牧」であって、何か決まり一つのパターンを実行すること

が「共同宣教司牧」ではない、ということのようです。また、一部の困難さだけを增幅させて「共同宣教司牧」全体を否定する動きにも注意しなければなりません。困難も多くありますが、次のような実りがあるのも事実なのです。

少しずつ実りが

共同宣教司牧になって「いろんな神父さんの説教が聴けるようになります。また、教会のバザーでお互いに協力し合うようになり、地区内での話合いや合同役員会も増えてきました。「私と神様だけの信仰」のあり方に、同じ信仰をもった兄弟姉妹がいる周り

の教会への関心が少しずつ加わっています。

小教区の壁を超えて、合同で学びの時を持つ場合もあります。例えば、小教区への出前の養成コースをお願いしたり、キリスト論・教会論の勉強会を一つの教会だけで行うのではなく、周りの小教区にも呼びかけたり、入門講座でのきる信徒の養成を共同で行ったり、祈りのコースを共同で開催したりとさまざまです。

同時に、各小教区では司祭・修道者・信徒からなる「病人訪問グループ」が発足したり、共同体の主日の祝いとしての「集会祭儀」の実施や学習会などが行われ始めていますし、毎年四百名を越える集会司式者・聖体奉仕者が任命されています。年に一回の「聖体奉仕者学習会」には百名を越える参加があり、聖体奉仕者として病人さんを訪問することを通して、奉仕者自身が大きな恵みに気づかれる、という体験を喜びをもつて目指しています。

て分かち合ってくださる方々もあります。

司祭にとっては、今まで一つでよかつた担当小教区が複数に増えるので、いくつもの「引き出し」を頭の中を作らなければなりませんが、司祭同士また修道者・信徒も含めた司牧チームのミーティングを通して、互いに支えあい、知恵を出し合って共同宣教司牧を実践しています。

奈良県南部ブロック共同宣教司牧（西大和・大和八木・大和高田・御所）では、司牧チームが次のようなビジョン宣言をしています。

- わたしたちは、各小教区の信徒たちが、特に役員会や祈りのグループを通して自己刷新のため、また

「奉仕するキリスト共同体」を作ることを見つけるために、わたしたちと一致協力して働く教会を目指しています。

- わたしたちは、共に学ぶことによって、この「奉仕するキリスト共同体」が少しずつ作られるよう

が他の三つの小教区の人々と緊密な交わりを保ちつつ、それぞれの「心と思いを一つにする」共同体づくりのために、お互に助け合うことを希望しています。

そして、このビジョン宣言の具體化として、十六項目からなる司牧計画を発表しています。この中には、共同宣教司牧地区内での説教・講話の共通テーマ、具体的な病人さんの訪問のやり方や「祈りのグループ」への呼びかけ、四教会合同の「祈りの一日」の計画、共同祈願を互いに分かち合うこと、月に一回の反省と評価を行うことなどが明言されています。

このような現状の中、現在、京都教区では、「教区カトリック協議会」を通して、共同宣教司牧をさらに推進していくため、そして幾つかの小教区と共同での教会活動・運営を進めていくためにも、共通の教会運営規約作りを始めています。これは教区内の全小教区の運営規約を一つに統一することではなく、また教区内の全小教区に、その運営のための共通の組織

を要求するものではありません。それぞれの共同宣教司牧の特徴を生かしながら、各小教区の独自性も生かして、お互いに共に奉仕するための「共通の約束事」を決めしていく作業なのです。さらに「共同宣教司牧」を通して、少しずつ信徒の間にも福音宣教への使命の自覚と共同責任を担う意識が深まっていると思います。

これからに向けて

共同宣教司牧が推進される中で、京都教区では昨年と今年、「小教区統合」が行われました。昨年は亀岡と園部の小教区が「丹波教会」として統合され、「一小教区、二聖堂」という形が初めてとられました。この小教区は、一人の司祭が両教会を長年「兼任司牧」していました。この小教区は、人が司祭を越えたこともあり、小教区を越えて関わりが続けられた結果の統合でした。現在では、役員会の統合、会計の一本化がなされ、主日のミサを含めて教会行事を合同で行っています。

今年三月には「尾鷲教会」が松阪教会に統合されました。小規模の小教区ゆえ、維持・管理が不可能になつたためです。この統合に

際しては、大きなトピックがありました。建物としての教会がなくなりたために、近隣のプロテントの教会に葬儀の際の会場の借用をお願いしたところ、「主のみ榮えを表すことになる」と快諾いたいたのです。「尾鷲教会」の土地建物はなくなりましたが、教派を超えた協力関係の中に教会の新しい姿を今後摸索していくことでしょう。

「教会」というと、「定住している司祭」「教会の聖堂と信徒会館」「小教区固有の会計」と考えている人たちには、このような京都教区の動きが理解できないかもしれません。でも、時代は移り、信徒は異動し、現代社会は刻々と動いています。教会の中で「変えてはいけないもの」をはつきりさせながら、現在、大胆にその姿を変えていく勇気が求められているのではないか。教会がその本来の使命である「福音宣教」をするために、時には組織や建物や財産をも捨てていくことが求められているような気がします。

「共同宣教司牧」は必ずしも小教区の統合を目的とするのではありませんが、共に一つになって協

力しあう姿の中から、また「福音宣教」という教会の本来の使命を

優先させるところから、小教区の統合も将来の一つの可能性として用をお願いしたところ、「主のみ榮えを表すことになる」と快諾いたいたのです。

ただいたのです。「尾鷲教会」の土地建物はなくなりましたが、教派を超えた協力関係の中に教会の新しい姿を今後摸索していくことでしょう。

司牧は単に「スーパー小教区」を作りだけのものであつてはいけません。共同宣教司牧は信徒同士、小教区同士、司祭と信徒・奉獻生活者といった「共同体性」の靈性のもとに、一人ひとりに与えられた神様からの賜物を見つけあい、育てあい、生かし合うことが不可以ないもの」をはつきりさせながら、現在、大胆にその姿を変えていく勇気が求められているのではないか。教会がその本来の使命である「福音宣教」をするために、時には組織や建物や財産をも捨てていくことが求められているよう気がします。

最後に、共同宣教司牧を進める上での注意点は、形式や方法論だけではなく、信徒一人ひとりの養成、靈性とも深く関わっていることを忘れてはならないことがあります。「共同宣教司牧」の推進のためには、司祭・修道者・信徒それぞれが、眞の意味で成熟した信仰者となり、神から一人ひとりに与えられている賜物を生かすことが求められているからです。

キリストは弟子を二人ずつ福音宣教に派遣されたこと（「一人ではない！」）、信徒一人ひとりがお互に「おまえはいる」と言えない大切な「キリストのからだ」としての教会の「一員」という聖書のことばからとらえ直してみれば、「共同宣教司牧」の推進は、單に組織の変更や方法論だけでなく、私たち一人ひとりが自分自身の信仰や信仰生活のあり方、教会のあり方を見つめ直し、神様によってより成長させていただく機会なのだ、と考えられないでしょうか。新しい千年期に向かって、私たちは子孫にどのような信仰を伝え、どのような教会を残していくのでしょうか。

※『福音宣教』誌十月号に掲載された内容を、本人と発行元の了解を得て、十一月号、十二月号の二回に分けて転載しました。

お
知
ら
せ

福音センターから

今月の大聖年指定行事

◆京都北部地区

「大聖年シンボルリレー完結記念大会」—感謝で祝う千秋楽ミサ—

日時 3日(日) 10時～15時

場所 日星高等学校

テーマ 隣人の声を聞き、感謝の

内容 内に共に祈ろう

大聖年シンボル引き継ぎ・
記念ミサ、アジア体験学習ツアーレポート、滞日
外国人との意見交換、
「シンボルリレーに参加して」の発表

◆京都南部地区北ブロック

「みんなでクリスマスを祝おう」

日時 16日(土) 午後

場所 加茂川～三条河原町教会

内容 周辺 野宿をよぎなくされてい
る人々と、彼らが来やす
いところで、周辺の人々
も巻き込んで「たのしい
クリスマスをしよう」

青年セントナーから

◆「東ティモールに水牛を送る会」

2001年度水牛絵葉書カレンダー
完成 一部800円 最寄りの教

会か、送る会TEL/FAX07
7-592-2141まで。

会員を募集しています。東ティモー
ルの惨状を知り、水牛と友に希望

を送ろうと1990年から活動を
続けています。一口1000円

基金は現地に送られ、水牛の購入

◆京都南部地区から

京都南部地区から

奈良地区から

◆奈良教会▼黙想会9日(土)

中川博道師▼街頭募金15日(金)

(～17日(日)) 近鉄奈良駅前付近

◆御所教会黙想会 9日(土)、

10日(日) 吉田師

(日) 近鉄高田市駅前 ▼キヤロ

リング23日(金) 近鉄高田市駅

前

◆河原町教会 「クリスマス市民

の集い」 24日(日) 19時

◆西陣教会▼信睦二金会 第二金

資金に充てられ、その水牛は現地
のNGOを通して、人々の生活に
生かされます。入会問合せ 07

5-822-7288 (河原田)、
077-592-2141 (高橋)

◆京都カトリック混声合唱団 練

習日 2日(土) 19時、河原町会

館6階 10日(日) 14時、河原町

教会地下ホール 練習後クリスマ

カルメル修道会

◆部落問題委員会・正義と平和京
都協議会 9日(土) 学習会

◆奈良地区から

◆大和八木教会黙想会 10日(日)

中川博道師▼街頭募金15日(金)

(～17日(日)) 近鉄奈良駅前付近

◆大和高田教会▼街頭募金3日

10日(日) 吉田師

(日) 近鉄高田市駅前 ▼キヤロ

リング23日(金) 近鉄高田市駅

前

◆聖ヴィンセンティオ・ア・パウロ

会▼河原町協議会 3日(日) ▼京

都中央理事会 17日(日) いずれも

13時30分、河原町教会

◆子羊会 10日(日) クリスマス

曜日 10時 西陣教会 クリスト
ス会

◆京都カトリック混声合唱団 練

習日 2日(土) 19時、河原町会

館6階 10日(日) 14時、河原町

教会地下ホール 練習後クリスマ

スパーティ。グレゴリオ聖歌、ミ

サ曲、モテット、日本語聖歌など

唱っています。どうぞお越し下さ
い。

◆京都キリストン研究会 黙想会

10日(日) 14時～16時 河原町会

館6階ホール 結婚相談室開設・例

会 3日(日) 13時受付、13時半

～15時 河原町会館6階ホール

◆在世フランシスコ会 京都兄弟

会 17日(日) 13時半 フランシ

スコの家

◆聖ヴィンセンティオ・ア・パウロ

会▼河原町協議会 3日(日) ▼京

都中央理事会 17日(日) いずれも

13時30分、河原町教会

◆子羊会 10日(日) クリスマス

パーティ

◆糠みその会 14日(木) 19時45

分、九条教会 練習日 今
年は14日(木)で終わりです。10
時～12時河原町教会地下ホール

3

日(日) 13時 河原町会館6階
◆京都カルメル会修道院 巡礼指

定地の大聖年行事 14日(木) 13時半講演会「十字架の聖ヨハネ」

講師 奥村一郎師 ミサ15時
◆聖母教育文化センター 聖書講

座 第3期 12月分 8日、15日、
22日 9時半～10時半 場所 聖

母女学院藤の森学舎本館2階会議
室 申込み電話 075-(641)0507

◆「インドへ友愛の手を!」 チャ
リティーコンサートVII 3日(日)
14時 場所 京都府立府民ホール

「アルティ」 ブラームス歌曲、ベー
トーベン ヴァイオリンソナタ他
出演者 ソプラノ東朝子、ヴァ
イオリン橋本寿子、ピアノ犬伏純
子 入場料 3000円 問合せTEL
049あずまで

◆「一万匹の蟻運動」 基金報告
累計26、926、992円
加入者860名(10月16日現在)

良書紹介

私たちの信仰生活に、潤いと
希望を与える、分かりやすい良
書を紹介します。詩編について、

福音宣教について、ゆるしにつ
いて、それぞれ一冊ずつ選びま
した(編集者)。

福音宣教について、もう一度
見直してみませんか

佐々木博(仙台教区司祭)著
『人とのかかわりの中で(信徒
による福音宣教)』

高橋重幸(トラピスト司祭)著
『詩編を祈る』

サンパウロ 1978
リティーコンサートVII 3日(日)
14時 場所 京都府立府民ホール

◆「インドへ友愛の手を!」 チャ
リティーコンサートVII 3日(日)
14時 場所 京都府立府民ホール

「アルティ」 ブラームス歌曲、ベー
トーベン ヴァイオリンソナタ他
出演者 ソプラノ東朝子、ヴァ
イオリン橋本寿子、ピアノ犬伏純
子 入場料 3000円 問合せTEL
049あずまで

◆「一万匹の蟻運動」 基金報告
累計26、926、992円
加入者860名(10月16日現在)

うか(本文より引用)。千五百
円。

★回心の一助に
幸田和生(東京教区司祭)著
『ゆるしの力』

女子パウロ会 1995
『戦後半世紀、これまでにもま
して、罪とか、おわびとか、補
償とか、そんなことばが、社会
を飛び交う。だが、本当の関係
を回復のため、何かの思いが欠け
てはいいのか。一人ひとりの心
に、真の安らぎをもたらすもの
が……(帯書きより)。本書で
は、二千年前にイエスが人々に
告げたゆるしとは何だったのか
をもう一度問い合わせてみようと思
いました。人と人、民族と民族
とが断ち切られ、理解し合え
ない痛みを感じている現代世界
の中で、すべての人との和解と
共生への道を模索するわたした
ちにとって大切なメッセージが
そこにはあると信じます(あと
がきより)。税込み千円。

詩編の祈りは、二十世紀の乗
り物のようなスマートなところ
はないかもしれないが、強力な
SL(蒸気機関車)のように、
今日も、私たちを神に向けて引
はってくれる。それは、詩編が
人間の作った祈りではなく、神
によって与えられた「神ご自身
のことば」、すなわち、「永遠に
生き」(イザヤ40・8)、「生き
て力がある」(ヘブライ4・12)
神のことばにほかならないから
である。したがって、私たちが
詩編を使って祈るとき、他の祈
りとは質的に異なる祈りをして
いる、と言えるのではないだろ

京都教区は、教区をあげて各
共同体が「宣教型の教会共同体」
になることを目指しています。
「福音宣教」と言わわれ始めた頃
に、なぜそれが必要なのか、どう
してそうするのか、信徒に何
ができるのか、などについての
指針が各方面から論じられまし
た。本書は、信徒による福音宣
教についての数少ない著書の中
でも、初心を思い起こすのに値
するものです。一人でも、グル
ープでも、共同体でも読むことが
できる内容になっています。二
十一世紀を目前にして、再読す
ることをおすすめします。九百
八十円。

大塚司教の

12月のスケジュール

- 1日（金）大阪管区司教会議（玉造）11時～16時
- 3日（日）京都北部大聖年行事「聖体大会」（日星高校）
- 4日（月）～5日（火）東京カトリック神学院新築校舎落成式
- 5日（火）～6日（水）社会司教委員会・社会問題勉強会
- 7日（木）正平協運営委員会
- 8日（金）～9日（土）女性国際戦犯法廷参加
- 10日（日）エスコラピオス修道会
- 日本宣教五十周年記念司教ミサ（四日市教会）
- 13日（水）東京カトリック神学院会議9時
- 13日（水）機構改革委員会
- 13日（水）司教常任委員会
- 14日（木）正平協事務局
- 14日（木）日韓関係史勉強会
- 16日（土）京都南地区北ブロック大聖年行事「みんなでクリスマスを祝おう」午後
- 17日（日）生誕二〇〇〇年市民クリスマス in Kyoto 17



『嫌なこと全部忘れよう!』
をテーマに九月三十日～十月一日にかけて、宮津市大江山バンガロー村にて開催されました。今回は、京都北部での開催ということで、高校生達が主体となってプログラムを企画しました。コンセプトとしては、参加者であろうと、スタッフであろうと、高校生であろうと、皆同じ。自分たちの寝るところは、自分で作る。もちろん、夕食も然りです。そして、夕食の献立はカレーだったのですが、それぞれが、何か一品カレーの材料を持ち寄り、その持ち寄った材料の中でカレーを作ることで、夕食の献立はカレーだったのですが、それぞれが、何かひとつになって、作り、それを皆で分かち合って食べたのでした。夜は、それぞれ自分の嫌なことについて、分かち合いをしていました。翌日のミサでは、大江山の大自然の中で、自分自身の中にある「嫌なトコロ」についてみつめ直し、そんな自分にイエスが語りかけられる呼びかけに耳を傾け、その呼びかけを胸に皆がそれぞれの日常へと派遣されたのでした。

◆編集部より
お知らせに載せたい情報は、2月号は12月18日、3月号は1月15日までに、京都教区事務所内「京都教区時報宛」にお願いします。

◇今まで、「高校生」という立場でいろんな集まりに参加してきましたが、しかし今回は、「スタッフ」という今までとは少し違う立場で参加してみて、一つ一つの企画をゼロから考え少しうまくやれました。この事がこんなに大変だと思いませんでした。
◇ミサの中で、自分の嫌なトコロを書いた紙を燃やした時、神父さんに「あなたの信仰が、あなたを救った。さあ、安心してくださいなさい」と言われ、すごく穏やかな気持ちになりました。自分がちょっととはマシな人間になつたよう気がしました。
◇分かち合いの中で、今何について分かち合っているのか、その意図をつかんで話をすることの難しさに気づきました。それと同時に、分かち合いの中で自分がよく分かったような気がします。
◇ミサの中で、福音を聞いた後に自分の嫌なトコロについて紙に書くということを通して、自分がみつめ直すことができ、とてもよかったです。